

クサソテツ *Matteuccia struthiopteris* (L.) Tod.

コウヤワラビ科 *Onocleaceae*

1. 利用可能部位：葉軸、若葉（食用）

2. 組織形態：

葉軸基部の断面は上に開いた盃型で上面中央は広く大きく凹み、左右は盛り上がって太い一對の稜となる（A）。葉軸の左右上方、上面との境の部分から羽片がでる（Cの左側）。葉軸（中肋）上部では上面中央の凹みは狭くなり、一對の稜は丸く盛り上がった形となる（B）。葉軸の左右上方、上面との境の部分から羽片が出るが、羽片の無い部分では細い筋状に突出する（B）。

表皮は1細胞層で細胞壁が薄い（E）。下表皮は外層では表皮より細胞径が小さく、細胞壁が厚い。内層に向かい径がやや大きくなり、葉軸の上面中央の凹み部分でもっとも薄く2~3細胞層程度、背軸側（盃の底にあたる）と上面の盛り上がった稜の部分でもっとも厚く、8~14細胞層になる。通気孔条は無い。維管束は1本で上に開いた盃状（A、B）。左右上端の木部は上面内側に折れ込んでいる（C、D）。

3. 利用例：知られていない。

4. 遺跡出土遺物

富山県小矢部市桜町遺跡から若葉（こごみ）が出土している。

小矢部市教育委員会『富山県小矢部市桜町遺跡発掘調査報告書 縄文時代総括編』、2007.

図説明

A:葉軸下部の断面。上に開いた盃状で、上面中央が大きくへこむ。左側の側面と上面の境に羽片の基部が見えている。維管束も盃状、上端の木部が大きく内側に折れ込む。 B:葉軸上部の断面。上面中央の凹みは狭くなり、その分一對の稜が大きく丸く突出する。維管束は下部と同じ。側面と上面の境は筋状に突出する。 C:葉軸下部の左上の断面。側面と上面の境に羽片の基部が見えている（羽片は切片作成時に切り落としてある）。側面の下表皮は4細胞層程度なのに上面の稜の部分では10細胞層以上の厚さがある。 D:葉軸上部の左上の断面。側面と上面の境は筋状に出っ張る。この部分に通気孔条は無い。 E:葉軸下面の組織。表皮は1細胞層で壁は薄い。下表皮は最外層では表皮より径が小さく細胞壁が非常に厚い。下表皮は8細胞層程度で、細胞は内層に向かって順次大きくなる。





